

海ごみ問題 視えてますか？

～海ごみ問題における可視化の必要性～

班員：橋本 JIANG 日下部 TIAN

青沼 都築 前多 今宮 高畑

教員：保坂 TA：阿部





私たちの主張

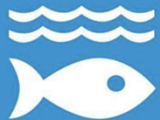
海ごみ問題を”可視化”したい！！

そもそも、海ごみ問題は...

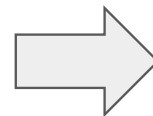
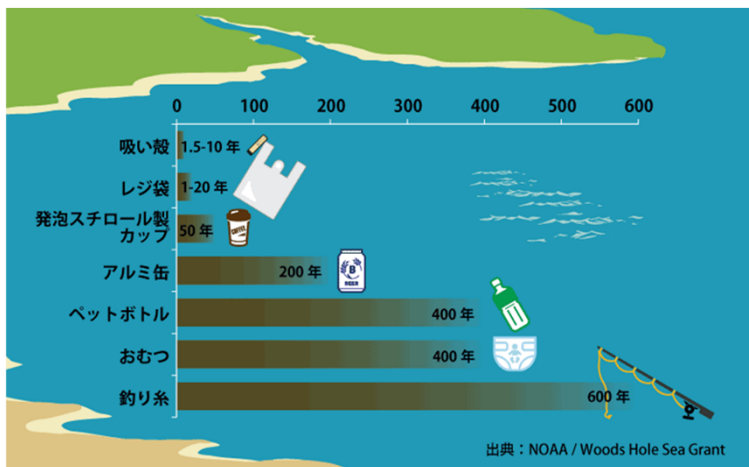
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

14 海の豊かさを守ろう

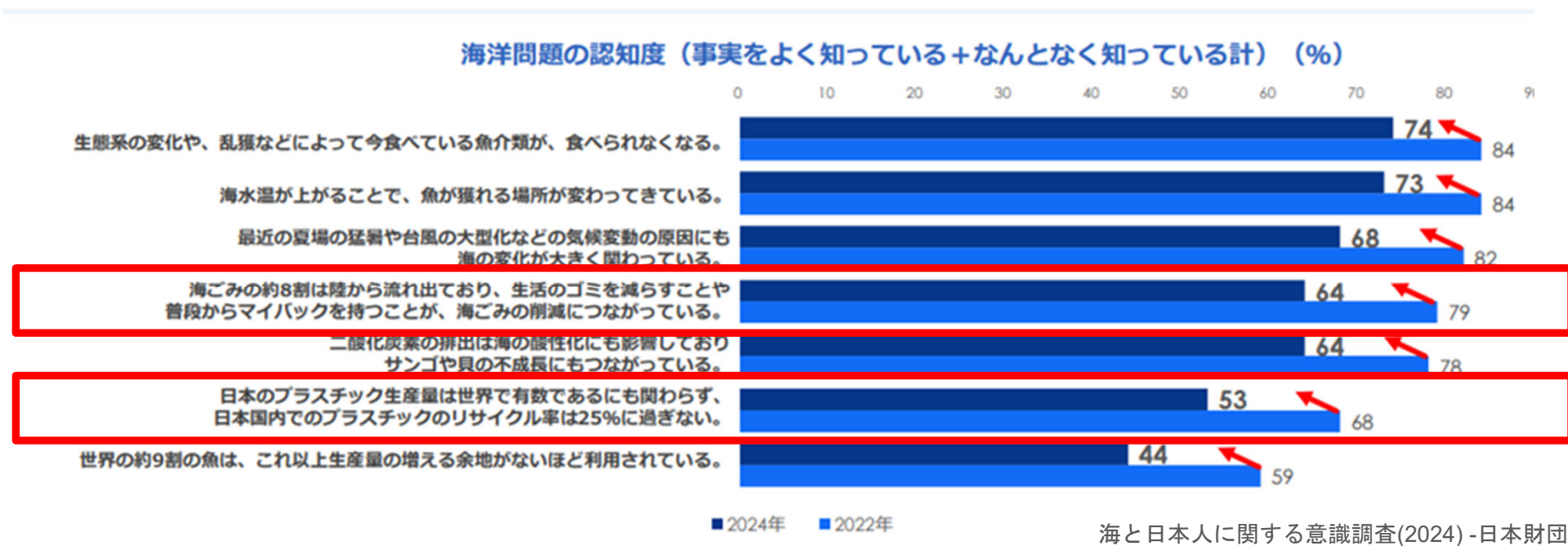


2015年に設定した目標として、「**2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する**」がある。



特にプラスチックごみが問題に

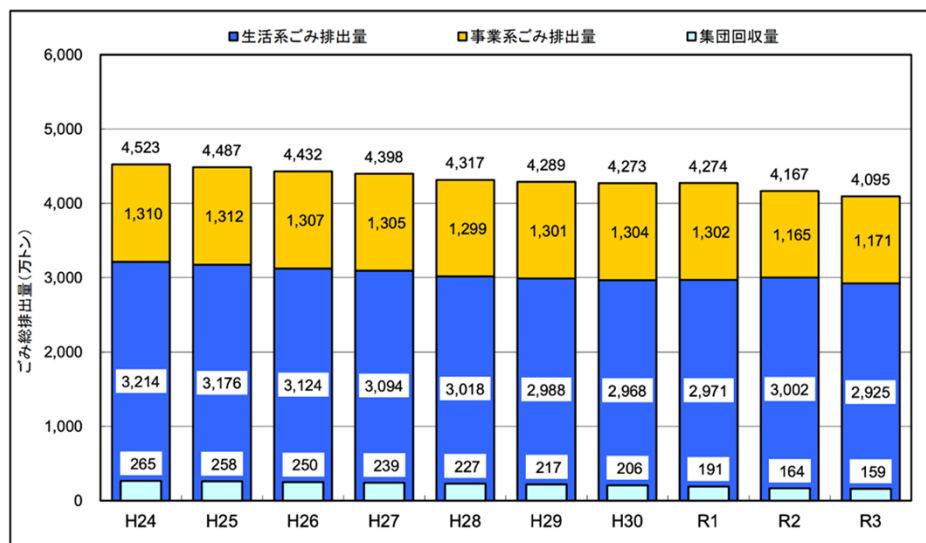
海ごみ問題の現状① 問題の認知度は低下している。



海洋問題への関心が全体的に下がる中、
海ごみ関連の認知度も15%ほど減少している。

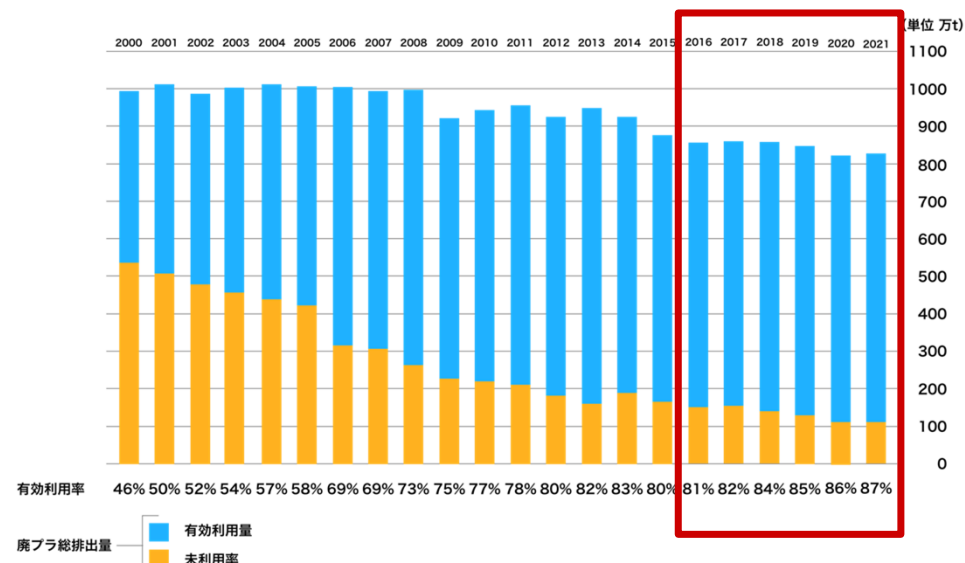
海ごみ問題の現状② プラごみの量はほぼ減っていない

生活系ゴミと事業系ゴミの排出量推移



一般廃棄物の排出および処理状況等について(令和3年度)：環境省

プラスチックの年間排出量の推移

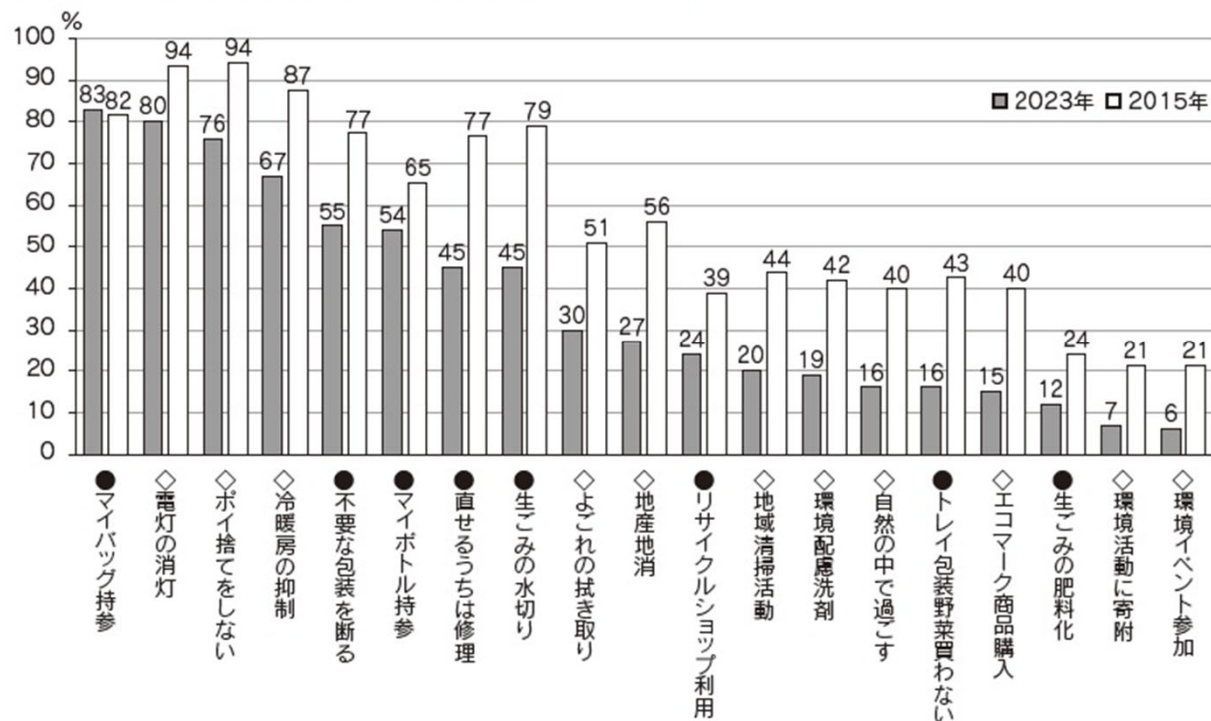


プラスチック製品の状況：一般社団法人プラスチック循環利用協会

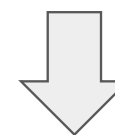
家庭ごみの排出量はほぼ横ばい・プラスチックの排出量も減少はほぼない
→ プラごみの排出量削減に社会の意識は向いていない。

海ごみ問題の現状③ 環境に配慮した行動量も減少している

図3 さまざまな環境配慮行動の実行度(●ごみ減量／◇省エネなど)



●ごみ減量について見ると
10~20%も実行度が下がっている

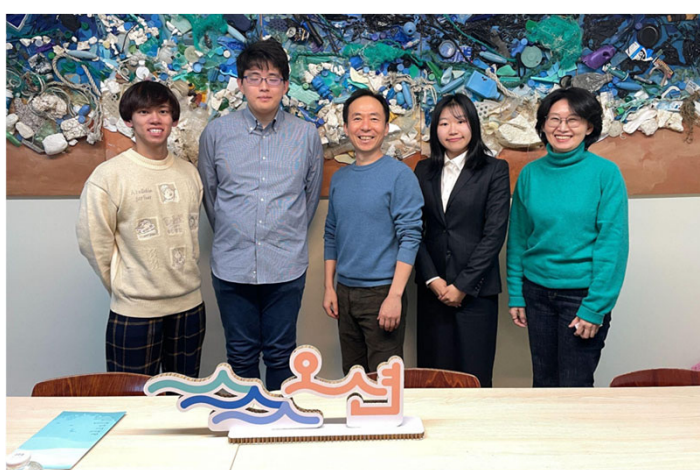


認知度の低下だけでなく
行動量の減少も招いている。

海ごみ問題の現状④ 実際に知っていますか??



●対馬の海岸



●対馬CAPPAの活動
●OSEAN
(Our sea of East Asia Network)

現状を踏まえて策定した方針

現状

- ・ 海洋問題の認知度が低下している
- ・ プラごみの排出量はほとんど変化が見られない
- ・ 環境に配慮した行動も減少しつつある

課題

海洋問題の認知度低下によって市民の問題意識が低下し、解決が遠のいている

解決策

海洋問題の現状を「可視化」し、市民に自分事として捉えてもらうことで、問題意識を活性化させ、行動に反映させることが必要不可欠

我々の考える「可視化」

辞書的な意味の可視化

目に見えないものを目に見える形で表示

我々の定義した可視化

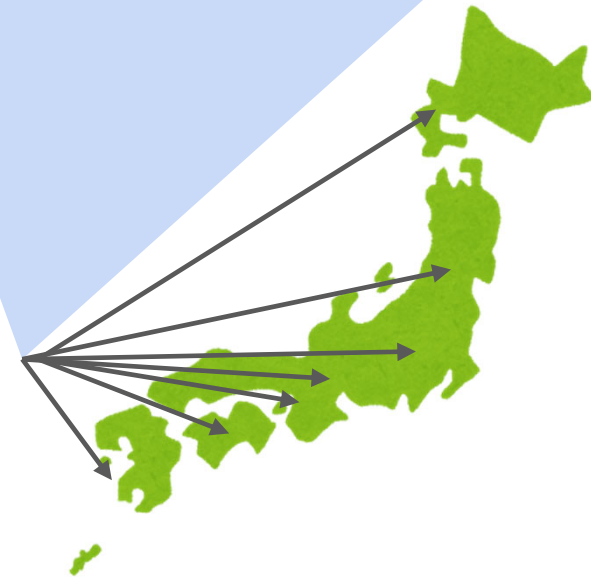
現場との距離に関係なく、

海ごみ問題の現状を全国の人と共有

目に見えないもの

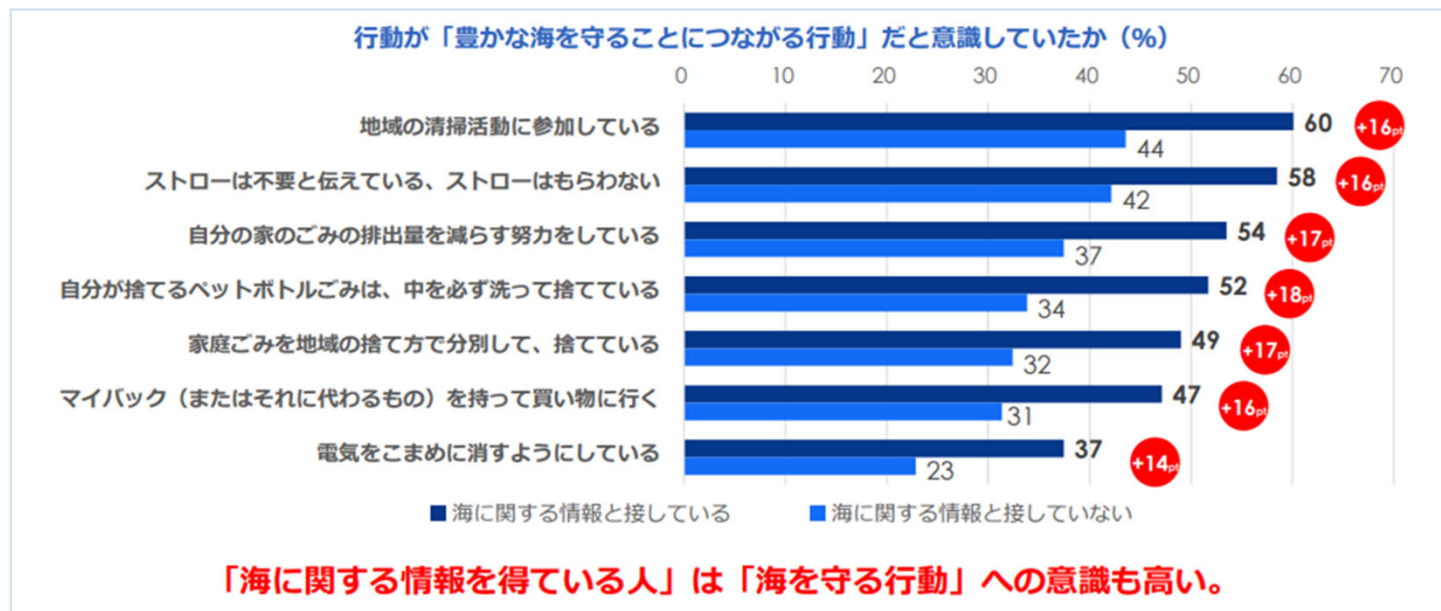
見える形に

例.対馬の漂着ごみの現状



なぜ「可視化」が今必要なのか？

- ・ 近年、「海離れ」が進行している
- ・ 海に関する情報を得ている人と、そうでない人の間で問題意識に差がある



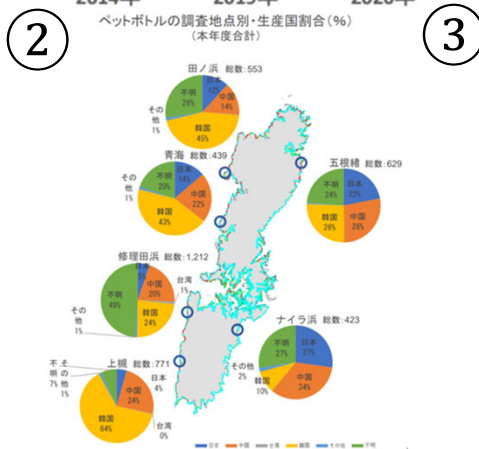
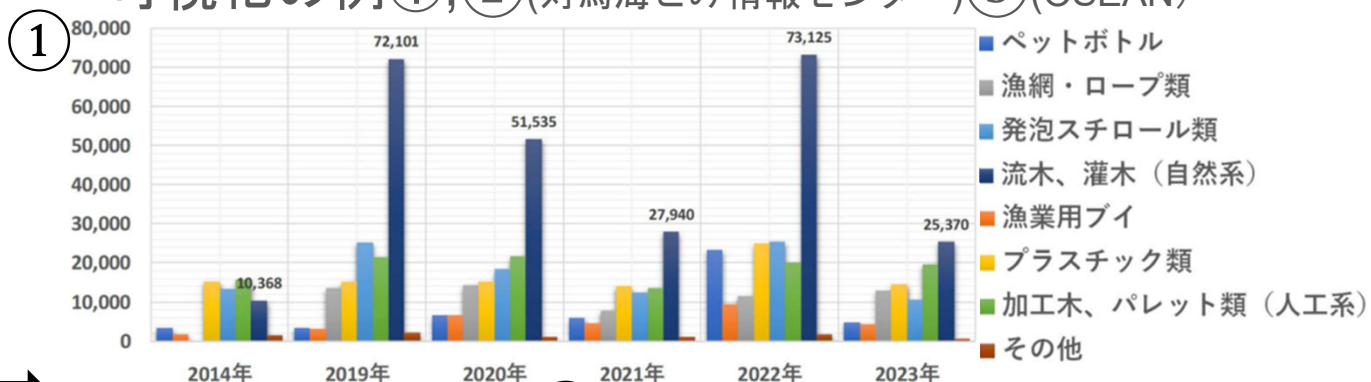
「可視化」によって、海離れの人々にも適切な情報を届けることが重要

「可視化」の具体的事例-定量的なもの

海ごみ問題の現状



可視化の例①, ②(対馬海ごみ情報センター)③(OSEAN)



海ごみの種類, 量, 出所が明確に「見える」

「可視化」の具体的事例-その他

海ごみ問題の現状



可視化の例④(対馬海ごみアートxNFTプロジェクト)⑤⑥(OSEAN)



海ごみ問題が分かりやすく,切迫感が明確に「見える」

現行の「可視化」では足りない点

現状

- ・「海離れ」が進行している
- ・海に関心のない人は、海洋問題解決に向けた行動の意識が低い

現行の「可視化」

現在実施されている「可視化」である海ごみアートやアップサイクル製品
→既に海に関心のある人が主な利用者

我々の「可視化」

- ・海に関心のない人に対して、海洋問題を認知してもらうこと
- ・さらに、海洋問題を自分事として捉えてもらうことが必要

だれにアプローチすべきか？

- ・ 海洋問題の認知度は20代や30代で低いスコア (=海に関心のない人)
- ・ 海ごみ問題の被害者となるのは将来の世代となる現在の子供世代 (=自分事)

海洋問題の認知度（事実をよく知っている+なんとなく知っている計）（%）

		(n数)	a. 生態系の変化	b. 魚の生産量	c. 海ごみ	d. プラスチック	e. 気候変動	f. 海水温	g. 海の酸性化
男性	全体	(11600)	74	44	64	53	68	73	64
	10代	(1100)	81	60	76	67	74	78	73
	20代	(940)	64	48	60	52	62	65	60
	30代	(940)	67	42	55	47	62	66	57
	40代	(940)	72	42	59	50	63	70	58
	50代	(940)	80	45	64	55	73	79	67
	60代	(940)	86	49	72	62	79	86	74
女性	10代	(1100)	73	47	72	58	67	72	67
	20代	(940)	61	37	54	44	56	60	54
	30代	(940)	63	31	54	38	54	63	51
	40代	(940)	70	33	60	44	63	70	57
	50代	(940)	79	38	67	54	75	81	69
	60代	(940)	86	48	73	58	83	89	78

a. 生態系の変化や、乱獲などによって今食べている魚介類が、食べられなくなる。

b. 世界の約9割の魚は、これ以上生産量の増える余地がないほど利用されている。

c. 海ごみの約8割は陸から流れ出ており、生活のゴミを減らすことや普段からマイバックを持つことが、海ごみの削減につながっている。

d. 日本のプラスチック生産量は世界で有数であるにもかかわらず、日本国内でのプラスチックのリサイクル率は25%に過ぎない。

e. 最近の夏場の猛暑や台風の大型化などの気候変動の原因にも海の変化が大きく関わっている。

f. 海水温が上がることで、魚が獲れる場所が変わってきている。

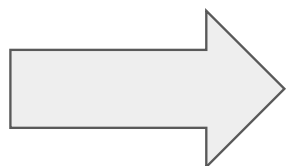
g. 二酸化炭素の排出は海の酸性化にも影響しておりサンゴや貝の不成長にもつながっている。

子育てを担う20代・30代に無知や無関心が多い。

子供たちをターゲットとし、子育てに携わる親・祖父母世代にも認知させる

可視化の手段 - QRコード

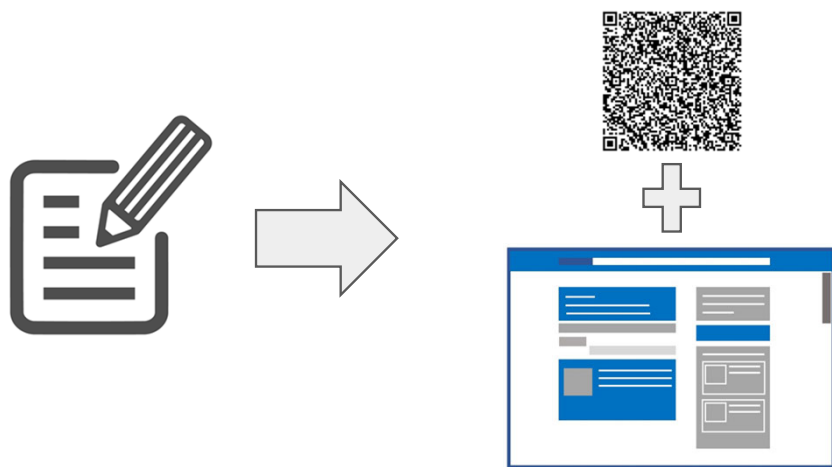
QRコードを利用して意図した情報に接触するよう誘導する取り組みはある



QRコードを使って関心がない人に海ごみの情報を届けることが可能ではないか

QRコードの利点

- 子供を通して親・祖父母世代に間接的にアプローチできる
- 少ないスペースで情報を伝達できる



スペースが限られている商品にも
QRコードとWebサイトを組み合わせる
ことで多くの情報を伝えられる



子供が親にQRコードを読み込むよう
頼むときに目に入る

QRリンク先に載せるコンテンツの内容

海ごみの現状



- ・ 海ごみ漂流地の写真
- ・ 流れてくるごみの写真

企業の取り組み



- ・ 自社製品の工夫
- ・ 海岸清掃などの活動

1人1人ができること



- ・ マイボトルの持参
- ・ ゴミを分別して捨てる



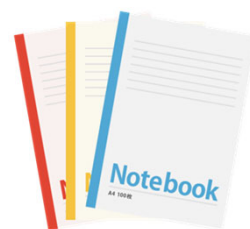
海ごみ問題の現状を共有しつつ、個人でできる行動を促す



実装の工夫

- ・ クイズ形式で興味を持ってもらう
- ・ QRコードと特典を関連付ける

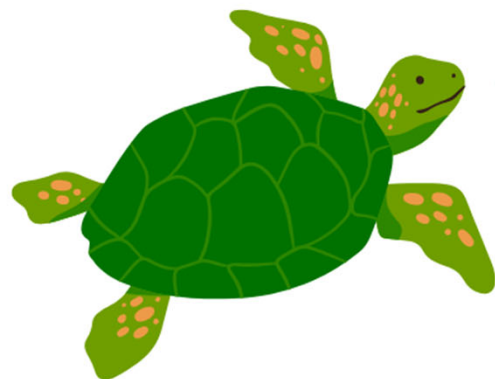
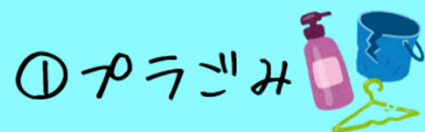
その他：QRコードを載せる商品例



子供に需要がある商品につける

実際に読み取ってみてください！

海の生き物を困らせてるのは？



↓ 答えはここから！ ↓



QRコードリンク先の概要

①クイズ形式で惹きつけ

- 難易度や問題は複数作る
- ・少し遊びの入れた選択肢でクスッと

海の生き物を
こまらせてるのは？

① プラゴミ

② 木材

③ 宿題

②解説とアクションを提

- 示 現実を共有できる情報を記載
- ・じゃあ何ができるの？にも対応

こたえ ①プラスチックゴミ

ビニールふくろをまちがえて食べてしまって苦しんでいる生き物や

捨てられたゴミによって住みかを汚されてしまっている生き物がいるよ...

ゴミはちゃんとゴミ箱に捨てようね

③リアルを伝える写真(未掲載)

- ・②の説明が実際に伝わるような写真
- ・切り取って強調するのは避ける



今後の検討課題

- **Webサイトに載せるコンテンツの信頼性**
 - 情報の信憑性を担保できる情報の供給源
- **実際に製品にQRコードを載せる上での課題**
 - 企業の目線で実装に必要な問題点
 - ラベル掲載のスペース、載せられる情報、コストパフォーマンス
 - 二社に問い合わせたが、回答なし

結論



現代の海が抱える「海洋ごみ問題」の解決を目指す社会提言をして下さい

課題

従来の手法では、接点が無い層にアプローチ出来ず
海ごみ問題の深刻さが共有されていない

解決策

子供(とその親)を対象に、QRコードを用いて
海ごみ問題の現状が可視化されたサイトに誘導する



ご清聴ありがとうございました。



参考文献

日本財団 (2024). 『「海と日本人」に関する意識調査 2024』 .

https://www.nippon-foundation.or.jp/wp-content/uploads/2024/07/new_inf_20240711_01.pdf

リンク集

- ・ 中間発表スライド

https://docs.google.com/presentation/d/16NuomuPmWgq4EYgUDq_ePIkpPQD6bO34ROxK9-dBCk0/edit?usp=sharing

- ・ HPサンプル

https://docs.google.com/presentation/d/18cW3jvznbC1Cijcf_3YRHwMWB0eNcX8yWs5jbW4L_0/edit#slide=id.p

- ・ QRコードイメージ

https://docs.google.com/presentation/d/1EMZJtC0tawyGm1IudkhCH6Upq2Ib5WujouxrujW-w/edit#slide=id.g321a02a4a9c_0_7

- ・ 12月23日に向けて

https://docs.google.com/presentation/d/1Atns_yCwqcciA1kiOPY21yPX3lwtDD0OguXHO-tq3nk/edit#slide=id.p

CAPPAメール回答

青沼 様
お世話になります。

質問事項に回答いたします。

①【子供達と関わりが深い商品(ペットボトルやノート等)にQRコードを掲載し、これにアクセスすることで、子どもたちと周りの大人が海ごみについて理解を深めるきっかけとなるウェブサイトを作成する。

①について

ペットボトルや子どもに関わらずノート等の文具にQRコードを入れることはよい案だと思います。
㈱テクノラボの海洋プラスチックのアップリサイクル商品のQRコードには、海洋プラスチックを拾った団体(海岸清掃をした団体)のHPに誘導する仕掛けがあります。

<https://buoy.stores.jp/>

②【「可視化」というアプローチは、現在、海ごみ問題を解決するにあたって、どの程度有効だと思うか？】

②について

大変有効であると思います。近年は情報収集手段の選択肢が増え情報が細分化しました。自分の周辺や自分に必要な情報、自分を肯定する情報などの偏った情報のみで世の中を判断する人間が増え、海ごみ問題についても無関心のかたは、ほとんど知りません。

③【海ごみの発生を減らす上で、より優先すべき事項はあるか？】

【QRコードを通じて、海ごみ問題の深刻さを訴えるウェブサイトを広める場合、どのような点を強調すべきか？】

③について

海ごみの現状を知らせるコンテンツも必要ですが、海ごみにならないようにするための方法(具体的に個人が何をすれば海ごみが減るのか?)を分かるように伝えるコンテンツが必要であると思います。
外出時には安易にごみ箱を利用せず、自分が出したごみを持ち帰り、住んでいる自治体の決まりに従ってごみを適正に処分することがいかに大切かを伝えてほしいと思います。

④【対象を主に子供達の海ごみ問題への関心を高めることに重きを置いているが、最もアプローチの必要な年齢層等】

④について

1. タイトル：海ごみ問題見えていますか？
2. 主張のまとめ
 - a. 可視化が足りない -> QRコードを使って子供にアプローチ
3. 現状
 - a. 海ごみ問題が提起されてから数年が経過したが、解決しそうにない
 - b. 海ごみ問題にあまり関心がない人にアプローチして、海ごみの根源に対処することが必要(CAPPA, フラットアワー)
4. 方針
 - a. 関心がない人へのアプローチはみんな苦労している(OCEAN)
 - b. 私たちは可視化が有効であると考えている(CAPPAも同意)
5. どの可視化がいいのか
 - a. 可視化にもいろいろある(海ごみの発生原因の可視化・海ごみの影響の数値化・海ごみの影響の視覚化)
 - b. 関心があまりない人へのアプローチとして考えると、みんなが触れる商品に海ごみの情報をつけることがいいと考えた
6. 誰にアプローチするのか
 - a. 海ごみ問題の関心のアンケート結果
 - b. 将来を担う、また、商品を買う際に親の目にも留まるという点で子供が良いのではないかと考えた(CAPPAも同意)
7. 可視化の具体的なイメージ
 - a. 商品のスペースも考えると商品にQRをつけて、海ごみの信頼できる情報を載せたWebサイトに飛べるようにすることが良い
8. 実装の工夫
 - a. QRを読み込んでもらう工夫
 - b. Webサイトのコンテンツ(CAPPAのアドバイス)
9. 実現可能性
 - a. 実際にメーカーに話を伺ってこれらの要件(メーカーからの返信待ち)を満たせば十分に実現可能であることがわかった
10. まとめ

私たちの主張

海ごみ問題を”可視化”し、
海ごみ問題の現状を現地の人と共有する

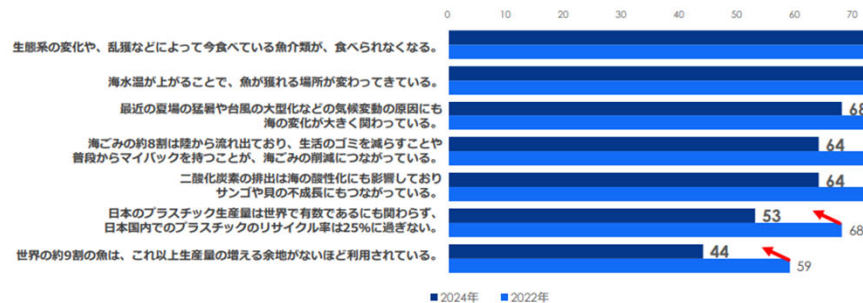
現状：海洋問題の認知度の低下(都築)

01_海へ行く機会と海への意識



海洋問題の認知度は、
2022年比で全体的に-10~-15ptと大幅に減少。

海洋問題の認知度（事実をよく知っている+なんとなく知っている計）（%）



「海が大切である」という認識がある一方で、認知度が低下している。

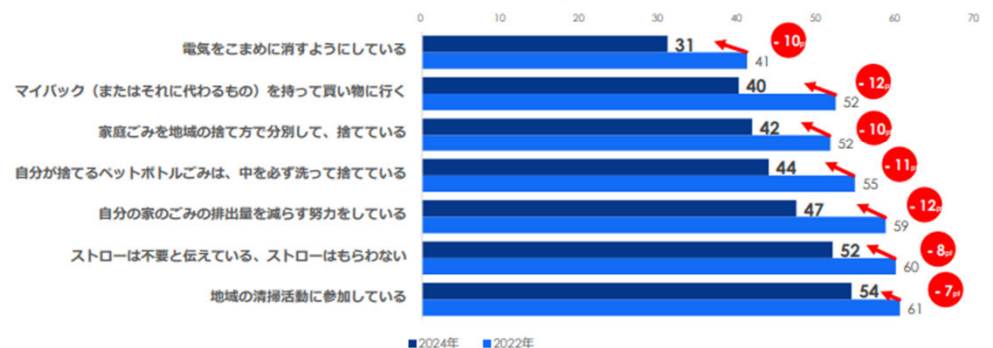
「Q.あなたにあってはまるものをお選びください」
※小数点以下省略 ※全ての年で回答数はn=11,600

01_海へ行く機会と海への意識



「豊かな海を守ることにつながる行動」を意識して行ったと回答した人は
2022年比で全体的に10ptほど減少。

行動が「豊かな海を守ることにつながる行動」だと意識していたか（%）



「海が大切である」という認識がある一方で、「海を守る行動」への意識が低下している。

「Q.以下の行動は、「豊かな海を守ることにつながる行動」でした。あなたの以下の行動で、そのことを意識して行っていたかどうかをお選びください」
※小数点以下省略 ※回答者ベースは上述の行動を行ったと回答した人

対象となる製品

子供が使う製品にQRコードを付ける

子供に普及している製品を選ぶ



飲料



学習用具



おもちゃ